

観光研究

ここでは、日本の観光の発展に寄与する学術面での「観光研究の動き」を概観する。

(1) 日本国内の観光関連学会

2023年8月時点で、日本学術会議のウェブサイトに掲載されている「日本学術会議協力学術研究団体」のうち、学会名称に「観光」、「ツーリズム」、「旅行」、「リゾート」、「余暇」、「レジャー」、「レクリエーション」、「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学会（以下、国内の観光関連学会）は、合計で12団体である（表 付記-1）。

このほか、「日本学術会議協力学術研究団体」には掲載されていないものの、観光関連の学会活動を行っている団体には、日本旅行医学会（2002年設立）、日本フードツーリズム学会（2009年設立）、国際観光医療学会（2010年設立）、ロングステイ観光学会（2016年設立）等がある。

① 全国大会

ともに大江靖雄氏（東京農業大学）が会長を務める日本観光学会と総合観光学会は、全国大会（第115回全国大会、第39回全国学術研究大会）を合同で開催した。なお、2023年度に総合観光学会は日本観光学会に合流している。

全国大会の統一テーマを見ると、全国大会を合同開催した日本観光学会、総合観光学会では“コロナ禍後の観光～課題と展望～”、日本レジャー・レクリエーション学会では“インクルーシブレクリエーションで生き生き生活を！”、余暇ツーリズム学会では“ヘリテージ・ツーリズムの展望”、日本ホスピタリティ・マネジメント学会では“コロナ後の地域振興～観光、物産、まちづくり”、日本観光ホスピタリティ教育学会では“科目「観光ビジネス」導入による現状と今後の展望”等が設定されている。

② 機関誌・学会誌

各学会が発行する機関誌・学会誌は合計14誌（日本語13、英語1）。2022年度に発行された機関誌・学会誌で設定されていた特集テーマには、“共生社会づくりに向けて観光が求められる貢献”（日本観光研究学会），“コロナ後の観光情報学（2）”（観光情報学会），“観光とエシックス—様々な探求の可能性”（観光学術学会），“COVID-19とツーリズムへの問い”（観光学術学会）等があった。

(2) 大学・大学院

2022年度、「観光」、「ツーリズム」、「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学部、学科を有する大学は45、大学院は11であった（表 付記-2）。

2022年度は、大阪成蹊大学が国際観光学部を新設し、

これに伴い2018年度に当時のマネジメント学部（現在の経営学部）に開設した国際観光ビジネス学科を廃止した。

同大学では、観光産業を「アフターコロナの最大のトリガーとなる産業」と見做し、次世代の観光産業を担う人材、グローバル社会で活躍できる人材育成を目標に掲げている。

同学部は、「国際観光コース」、「観光まちづくりコース」、「国際ビジネスコース」の3コースから成り、カリキュラムには、専門知識を学ぶ授業とともに、旅行会社、航空会社と連携した特別授業や演習、2年次から始まる企業でのインターンシップ等、社会との結び付きを体験し、キャリアを見極める機会が多く取り入れられている。

表 付記-2 日本の観光関連大学・大学院の数

	大学	学部	学科	大学院
2022年度	45	18	45	11
2021年度	45	17	44	11
2020年度	44	16	44	11

（注）大学の場合は学部・学科名に、大学院の場合は研究科・専攻名に「観光」、「ツーリズム」、「ホスピタリティ」という言葉を含むもののみをカウント。
資料：文部科学省「年度別開設大学等一覧」、各大学のウェブサイトをもとに（公財）日本交通公社作成

(3) 科学研究費助成事業における観光学の扱い

2022年度の科学研究費助成事業の「観光学関連」（小区分80020）等における新規採択件数は83件で、研究種目の内訳は、基盤研究（B）13件、基盤研究（C）51件、若手研究17件、特別研究員奨励費1件、挑戦的研究（萌芽）1件であった（表 付記-3）。配分される科学研究費の合計は約4億円、その内訳は、100万円未満が3件、500万円未満が66件、1千万円未満が2件、5千万円未満が12件となっている。

研究のキーワードは、「オーバーツーリズム」が6件、「観光」、「観光政策」が各4件、このほか、「COVID-19」、「Tourism」、「エコツーリズム」、「ツーリズム」が各3件であった。以下、2件で、「VR」、「オンラインツアー」、「ポスト・コロナ」、「ワーケーション」、「世界遺産」、「地域活性化」、「地域資源」、「持続可能な観光」、「持続可能性」、「温泉観光地」、「観光土産」、「観光地」、「観光地マネジメント」と続く。

新規採択件数を研究機関別に見ると、5件が東京都立大学（総配分額45,890千円）、4件が和歌山大学（同13,390千円）、3件が北海道大学（同6,780千円）、文教大学（同16,250千円）、2件が東京大学（同19,890千円）、中央大学（同7,930千円）、桃山学院大学（同6,630千円）、香川大学（同18,720千円）、立命館アジア太平洋大学（同18,070千円）となっている（表 付記-4）。

（立命館アジア太平洋大学 吉澤清良）

表 付記-1 国内の観光関連学会の概要

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容(2022年度)	学会誌(機関誌)、大会論文集
1	日本観光学会 Japan Academic Society of Tourism(JAST) ○正会員 221名 ○準会員 37名 (大学院生・大学生) ○賛助会員 1名 (2023年8月時点)	【会長】 大江靖雄(東京農業大学) 【本部事務局】 青山学院大学 社会情報学部 長橋透研究室 【支部】 東北・北海道支部、関東支部、中部支部、関西・中四国支部、九州・沖縄支部	○全国大会の開催(年1回、研究報告、シンポジウム、学会総会等) ・2022年度(第115回)大会 ※日本観光学会・総合観光学会合同全国大会として開催 ・大会統一テーマ: コロナ禍後の観光～課題と展望～ ○支部会(研究発表会、支部総会)の開催 ・東北・北海道支部会の開催 ・関東支部会の開催 ・中部支部会の開催 ・九州・沖縄支部会の開催 ○第5回学生観光プレゼン大会 ・関東支部主催 ○学会誌の発行(『日本観光学会誌』、年1回) ○学会賞の授与	【学会誌】 『日本観光学会誌』(1996年～、年1回) (前身『日本観光学会研究報告』1961～1995年) ・2022年度: 第63号 論文5本、研究ノート3本 ※2021年度途中からJ-STAGEでの公開開始 【大会論文集】 『研究発表要旨集』(年1回) ※学会のウェブサイトからダウンロードする形に変更(期間限定)
2	日本レジャー・レクリエーション学会 Japan Society of Leisure and Recreation Studies(JSLRS) ○正会員 250名 ○購読会員 21団体 (2023年8月時点)	【会長】 沼澤秀雄(立教大学) 【事務局】 昭和女子大学 人間社会学部 福祉社会学科 山梨みほ准教授研究室 【支部】 なし	○学会大会の開催(年1回、地域研究、基調講演、シンポジウム、研究発表、ワークショップ、総会等) ・2022年度(第52回)大会 ・大会テーマ: インクルーシブレクリエーションで生き生き生活を! ○研究会・講演会等の開催 ○学会誌の発行(『レジャー・レクリエーション研究』、年3回) ○学会ニュースの発行(年2～3回) ○学会賞の授与(日本レジャー・レクリエーション学会賞(学会賞、研究奨励賞、支援実践奨励賞、貢献賞)、2007年～) ○研究の助成(研究助成金制度、2011年～) ○内外の諸団体との連絡と情報の交換(世界レジャー機関、全米レクリエーション・公園協会との情報交換、ウェブサイトのリンク等)	【学会誌】 『レジャー・レクリエーション研究』 (1992年～、年3回) (前身『レクリエーション研究』1965～1991年) ・2022年度: 第97号 原著6本 第98号 第52回大会発表論文集 第99号 原著1本、研究資料3本、実践研究1本、第52回レジャーレクリエーション学会大会地域研究1本 【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)
3	余暇ツーリズム学会 The Association for Leisure and Tourism Studies ○正会員 154名 ○準会員 8名 ○名誉会員 3名 (2023年8月時点)	【会長】 長谷川恵一(早稲田大学) 【本部事務局】 早稲田大学 商学学術院 長谷川恵一研究室 【支部】 関東支部、九州支部	○学会大会の開催(年1回、自由論題報告、会員総会、統一論題報告・討論等) ・2022年度大会 ・統一論題: ヘリテージ・ツーリズムの展望 ○支部大会の開催(年1～2回、研究発表等) ○研究部会の開催(ライフスタイル研究部会、ヘルス・スポーツツーリズム研究部会、料飲サービス研究部会、レジャー・スタディーズ研究部会、エンタテインメント・ツーリズム研究部会、プライダル研究部会、ツーリズム心理研究部会、学生教育研究部会) ※2023年度より料飲サービス研究部会を廃止し、フード・ツーリズム研究部会を新設 ○学会誌の発行(『余暇ツーリズム学会誌』、年1回) ○受託研究 ○会員の研究活動支援(研究助成制度) ○学会賞の授与(2016年～)	【学会誌】 『余暇ツーリズム学会誌』(2014年3月～、年1回) (前身『余暇研究』1998～2013年、『ツーリズム学会誌』2001～2012年) ・2022年度: 第10号 第10号記念寄稿4本、追悼文2本、論文7本、研究ノート5本、基調講演1本、統一論題報告3本
4	日本観光研究学会 Japan Institute of Tourism Research(JITR) ※2022年度より(一社)日本観光研究学会へ移行 ○正会員 1,127名 ○準会員 0名 ○名誉会員 9名 ○賛助会員 3団体 ○特別会員 8団体 (2023年7月末時点)	【会長】 橋本俊哉(立教大学) 【事務局】 東京都豊島区西池袋4-16-19 コンフォルト池袋106 【支部】 関西支部(2003年7月設立)、九州・韓国南部支部(2007年4月設立)、東北支部(2015年3月設立)	○全国大会の開催(年1回、講演会、シンポジウム、研究発表等) ・2022年度(第37回)大会 ・シンポジウムテーマ: 新しい働き方/住まい方と地域の可能性 ○総会の開催(年1回、講演、学会表彰、シンポジウム) ○研究分科会の設置、助成 ○研究懇話会(年2回)の開催 ○支部の活動 ○学会誌の発行(『観光研究』、年2回) ○観光学全集の発行 ○会務報告の発行(『会務報告』、年2回) ○メールニュースの配信 ○特別研究の助成 ○学会賞の授与(論文奨励賞、観光著作賞、2007年度～) ○優秀論文賞の授与 ○図書の監修(『観光学全集』全10巻予定) ○観光研究に関する外国諸団体との交流等	【学会誌】 『観光研究』(1987年～、年2回) ・2022年度: Vol.34 No.1 論文3本、研究ノート1本、説読1本 Vol.34 No.2 論文5本、研究ノート1本、特集(共生社会づくりに向けて観光が求められる貢献)6本 Vol.34 No.3 特集号 第37回全国大会学術論文(査読付き部門)14本 【大会論文集】 『全国大会学術論文集』(1986年～、年1回)
5	日本国際観光学会 Japan Foundation for International Tourism(JAFIT) ○正会員 378名 ○学生会員 38名 (大学院生・大学生・短期大学生・専門学校生) ○名誉会員 2名 ○賛助会員 2団体 (2023年8月時点)	【会長】 嶋本武志(江戸川大学) 【事務局】 東京都千代田区二番町1-2 番町ハイム701 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、研究発表等) ・2022年度(第26回)大会 ・パネルディスカッションテーマ: 日本国際観光学会と論文のあり方について ○例会の開催(研究発表、講演、年5回) ○論文集の発行(『日本国際観光学会論文集』) ○産学協同セミナー「ツーリズム・フォーラム」の開催(2003年～) ○自由論集の発行(年1回) ○テーマ別研究部会による活動(①観光への知的財産権活用、②宿泊関連、③持続可能な観光、④精神性の高い観光、⑤福祉観光、⑥おもてなし文化、⑦航空マネジメント、⑧オーバーツーリズム、⑨ドスティネーション&トランスブランディング、⑩ワーケーション、⑪観光マネジメント) ○国内外でのシンポジウム開催 ○国際観光研修旅行の実施 ○教科書・学術書の出版 ○国際観光に関する学術調査及び研究 ○内外の企業、団体、個人からの委託研究 ○関連学会、協会との連絡及び交流	【学会誌】 『日本国際観光学会論文集』(1993年～、年1回) ・2022年度: 第30号 論文4本、研究ノート9本 『日本国際観光学会自由論集』 (2017年～、年1回) ・2022年度: 自由論集Vol.6 23本 【大会論文集】 『全国大会概観集』(2001年～、年1回発行)
6	日本ホスピタリティ・マネジメント学会 Japan Academic Society of Hospitality Management(JASH) ○正会員 184名 ○学生会員 2名 ○名誉会員 7名 (2023年8月時点)	【会長】 藤井孝(北見工業大学) 【本部/事務局】 江戸川大学 社会学部 嶋本武志研究室 【支部】 北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部	○全国大会の開催(年1回、研究発表、年次総会、基調講演、パネルディスカッション等) ・2022年度(第30回)大会 ・大会テーマ: コロナ後の地域振興～観光、物産、まちづくり ○研究専門部会の開催(適宜) ○研究発表会 ・関東支部研究発表会の開催 ○学会誌の発行 (『HOSPITALITY』、『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT』、ともに年1回)	【学会誌】 『HOSPITALITY』 (1993年～2012年度: 年1回、2013～2015年度: 年2回、2016年度～: 年1回) ・2022年度: 第33号 論文12本、研究ノート4本 『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT』 (2012年～、年1回(2013年は年2回)) ・2022年度: Vol.9 No.1 論文3本
7	総合観光学会 The Japan Society for Interdisciplinary Tourism Studies ○会員 95名 (正会員91名、学生会員4名) (2023年3月末時点)	【会長】 大江靖雄(東京農業大学) 【事務局】 立教大学 観光学部 東徹研究室 【支部】 なし ※2023年度より日本観光学会と合流	○全国学術研究大会の開催(年1回) ・2022年度(第39回)大会 ※日本観光学会・総合観光学会合同全国大会として開催 ・大会統一テーマ: コロナ禍後の観光～課題と展望～ ○学会誌『総合観光研究』第21号(最終号)の発行(2023年3月) (※創刊号からJ-STAGEで公開) ○会報の発行(第40号(2022年8月1日)) ※第41号(最終号)は2023年7月31日発行 ○その他(学会公式ウェブサイトの充実)	【学会誌】 『総合観光研究』(2002年度～、年1回) ・2022年度: 第21号(20周年記念号) 特集4本、論文1本、研究ノート1本

付記

観光研究

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容(2022年度)	学会誌(機関誌)、大会論文集
8	観光まちづくり学会 The Society of Tourism and Community Design ○正会員 118名 ○学生会員 3名 ○院生会員 4名 ○法人会員 4団体 ○名誉会員 6名 (2023年8月時点)	【会長】 細野昌和(北海道大学) 【事務局】 (一社)岩手県土木技術センター内 【支部】 北海道支部(2008年～)	○役員会、総会の開催 ○学会誌の発行(『観光まちづくり学会誌』、年1回) ※以下はコロナ禍により延期 ○研究大会の開催(年1回、基調講演、研究発表、会員総会等) ○学会賞の授与(学術論文賞・優秀発表賞) ○講演会、講習会の開催 ○調査研究、視察会の開催	【学会誌】 『観光まちづくり学会誌』(2003年～、年1回) 【大会論文集】 なし(学会誌及び学会のウェブサイトに掲載)
9	日本観光ホスピタリティ教育学会 The Japanese Society of Tourism and Hospitality Educators(JSTHE) ○正会員 191名 ○準会員 6名 ○特別会員 2団体 ○名誉会員 3名 (2023年8月時点)	【会長】 藤田玲子(成蹊大学) 【事務局】 杏林大学 外国語学部内 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、講演、事例報告、教育実践報告・研究教育論文発表、ワークショップ等) ・2022年度(第22回)大会 ・大会テーマ:科目「観光ビジネス」導入による現状と今後の展望 ○総会・シンポジウムの開催(年1回) ○研究会の開催(年2回) ○学会誌(機関誌)の発行(『観光ホスピタリティ教育』、年1回) ○学術論文集の発行(『全国大会論文集』) ○全国大会発表概要の発行(『全国大会発表要旨集』) ○Newsletterの発行(年3回)	【学会誌(機関誌)】 『観光ホスピタリティ教育』(2006年～、年1回) ・2022年度:第16号 論文1本、書評4本、フォーラム(グループ研究助成制度 研究報告)1本 【大会論文集】 『全国大会論文集』(年1回)『全国大会発表要旨集』(年1回)
10	観光情報学会 Society for Tourism Informatics(STI) ○正会員 147名 ○学生会員 17名 ○コールド資助会員 4名 ○個人資助会員 5名 ○企業・団体会員A 2団体 ○企業・団体会員B 3団体 (2023年8月時点)	【会長】 鈴木恵二(公立はこだて未来大学) 【事務局】 北海道札幌市北区北7条西4-1-1 トーカン札幌第一キャスティングビル607 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、パネル討論、学術講演セッション、総会等) ・2022年度(第18回)大会 ○研究発表会の開催(年2回、研究発表、エキスカージョン) ○観光情報学会の開催(さっぽろ、はこだて、かがの、たいせつかみイ、ちゅうしこく、いわて、オホーツク圏、とうかい、きゅうしゅう) ○学会誌の発行(『観光と情報』、年1回) ○学会賞の授与(大会優秀賞、大会奨励賞、研究発表会優秀賞、研究発表会奨励賞、功労賞) ○メルニュースの配信 ○情報提供事業、コンサルティング、活動支援等	【学会誌】 『観光と情報』(2005年度～、年1回) ・2022年度:第18巻 特集(コロナ後の観光情報)3本、研究ノート1本 【大会論文集】 『全国大会講演予集』(2004年度～、年1回)『研究発表会講演論文集』(2009年度～、年2回)
11	コンテンツツーリズム学会 The Academy of Contents Tourism(ACT) ○正会員 126名 ○学生会員 22名 (大学院生・大学生) (2023年8月時点)	【会長】 増淵敏之(法政大学) 【事務局】 文教大学 国際学部 清水麻帆研究室 【支部】 なし	○論文発表大会(年1回、特別講演、論文発表、講評等) ・2022年度(第10回)大会・基調講演:「サードプレイスとしてのコスプレ、地域創生としてのコスプレ」柴田昭((株)コスパ) ・論文発表大会 ○学会論文集の発行(『コンテンツツーリズム学会論文集』) ○シンポジウムの開催(年1回) ・2022年度基調講演:「中京テレビにおけるメタバースの活用と新たなビジネス展開」市健治(中京テレビ放送(株)放送ビジネスプロデュース局ビジネス開発部 部長) ・2022年度パネルディスカッションテーマ:メタバースにおける新たなツーリズムの可能性 ○研究会(不定期開催)	【学会誌】 『コンテンツツーリズム学会論文集』(2014年度～、年1回) ・2022年度:Vol.10(10周年記念号) 巻頭言、2023年度のシンポジウムの基調講演及び対談、寄稿論文1本、書評1本
12	観光学術学会 Japan Society for Tourism Studies(JSTS) ○名誉会員 1名 ○正会員(一般) 351名 ○正会員(大学院生) 74名 ○正会員(シニア) 4名 ○機関会員 8機関 ○準会員(学生) 0名 (2023年8月時点)	【会長】 遠藤英樹(立命館大学) 【事務局】 (有)CR-ASSIST(大阪府) 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、フォーラム、大学院生育成セミナー、学生ポスターセッション、一般研究発表等) ・2022年度(第11回)大会 ・大会シンポジウムテーマ:COVID-19とツーリズムへの問い ・フォーラムテーマ:コロナ禍における観光教育 ○研究集会の開催 ・2022年度(第10回)研究集会 ・テーマ:「メディア誘発型観光」研究の刷新 ○学会誌の発行(『観光学評論』、年2回) ○学会賞の授与(著作賞、論文賞、教育・啓蒙著作賞等8種、2013年度～) ○図書等の刊行 ○観光学術の研究調査 ○国内外の学術団体、学会との連絡・交流	【学会誌】 『観光学評論』(2012年度:年1回、2013年度～:年2回) ・2022年度:Vol.10 No.2 萌芽論文1本、特集(観光とエシックス)様々な探求の可能性)論文3本、フォーラム1本、書評2本 Vol.11 No.1 原著論文1本、特集論文(COVID-19とツーリズムへの問い)5本、書評1本 【大会論文集】 『全国大会発表要旨集』(2012年度～、年1回)

(注)日本学術会議のウェブサイトに掲載されている「日本学術会議協力学術研究団体」のうち、学会名称に「観光」、「ツーリズム」、「旅行」、「リゾート」、「余暇」、「レジャー」、「レクリエーション」、「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学会を「国内の観光関連学会」として抽出した。

資料:各学会のウェブサイト、各学会への聞き取り調査をもとに(公財)日本交通公社作成(2023年8月時点)

表 付記-4 科学研究費「観光学関連」の採択件数の上位研究機関(2022年度)

研究機関	採択件数	研究種目	総配分額(千円)
東京都立大学	5	基盤B:2、基盤C:1、若手:2	45,890
和歌山大学	4	基盤C:4	13,390
北海道大学	3	基盤C:2、特別研究員奨励費:1	6,780
文教大学	3	基盤B:1、基盤C:1、若手:1	16,250
東京大学	2	基盤B:1、若手:1	19,890
中央大学	2	基盤C:2	7,930
桃山学院大学	2	基盤C:2	6,630
香川大学	2	基盤B:1、基盤C:1	18,720
立命館アジア太平洋大学	2	基盤B:1、基盤C:1	18,070

(注)研究期間の開始年度が2022年度で、審査区分が「小区分80020:観光学関連」の82件、

また研究概要から判断した「中区分8:社会学およびその関連分野」の1件を対象としている。

資料:科学研究費助成事業データベースをもとに(公財)日本交通公社作成

付記

観光研究

表 付記-3 科学研究費「観光学関連」等の新規採択研究課題(2022年度～)

研究課題名	研究種目	研究機関
1 双方ワーキング・ワークショップによる地域活性化の実証的研究	基盤研究(B)	香川大学
2 環境データ駆動型観光を目指した自然景観発生予測・公開システムの開発	基盤研究(B)	北見工業大学
3 観光の集積効果と地域発展:コロナ前の観光政策の評価に基づく稼げる新観光戦略の構築	基盤研究(B)	佐賀大学
4 仮想観光が利用者等の集団心理や観光業界にもたらす影響についての実証研究	基盤研究(B)	国立研究開発法人情報通信研究機構
5 持続可能な観光のための戦略的オーバーツーリズム対処療法の構築	基盤研究(B)	筑波大学
6 気候変動・縮小期における観光と保全の両立:境界オブジェクトとしての土地利用マップ	基盤研究(B)	東京大学
7 持続可能な観光地域形成パッケージの国際的技術移転とネットワーク形成に関する研究	基盤研究(B)	東京立大学
8 観光実態把握のためのマイクロ流動把握のモデル化と方法論	基盤研究(B)	東京立大学
9 プレイス・ブランディングにおけるセンス・オブ・プレイス手法の体系化	基盤研究(B)	新潟大学
10 災害伝承観光を復興の第二ステージへの展開に活用するしくみに関する実証的研究	基盤研究(B)	文教大学
11 移動前提社会における地域住民と移動者による新たなコミュニティの形成プロセス	基盤研究(B)	北陸先端科学技術大学院大学
12 From Crisis to Resilience: The Social - Ecological Systems (SES) Approach to Tourism Recovery in East Asia	基盤研究(B)	立命館アジア太平洋大学
13 ポスト・オーバーツーリズム期における脱成長型観光政策の実装に向けた包括的研究	基盤研究(B)	龍谷大学
14 観光資源化が進む地域鉄道の災害リスクを考慮した事業継続計画策定手法の開発	基盤研究(C)	愛知工業大学
15 「観光振興プロジェクトの地域連携パス」の開発と体系化	基盤研究(C)	江戸川大学
16 ホスピタリティ産業の生産的組織と持続可能な働き方モデルの構築	基盤研究(C)	桜美林大学
17 深刻化する孤独問題に対する余暇・観光論からのアプローチ	基盤研究(C)	大阪観光大学
18 「観光危機」概念の確立に向けた理論的枠組みの構築に関する知識社会学的研究	基盤研究(C)	大阪公立大学
19 一人旅の心理・体験過程とその記憶の機能 -ウェルビーイングに資する旅の解明-	基盤研究(C)	大阪国際大学
20 20世紀初頭の大阪及び大阪近郊における遊園地開発史に関する基礎的研究	基盤研究(C)	大手前大学
21 ランアメリカ地域におけるエコツーリズムの発生・定着に関する研究	基盤研究(C)	香川大学
22 観光地マネジメントにおけるDMOとエリアマネジメント組織の役割と協働のあり方	基盤研究(C)	神奈川大学
23 アメ聖地巡礼者の行動特性分析と類型化-行動モデル分析に基づく地域誘客への応用-	基盤研究(C)	関東学院大学
24 持続可能な社会への転換に向けた地方観光のガバナンスに関する研究	基盤研究(C)	九州産業大学
25 Immersive Technology Implementations in the MICE Industry	基盤研究(C)	京都外国語大学
26 オーバーツーリズムが及ぼす環境負荷の評価-大久野島の持続可能な利用に向けて	基盤研究(C)	呉工業高等専門学校
27 温泉観光地再生過程におけるモニタリング指標セット(試論)の構築	基盤研究(C)	芸術文化観光専門職大学
28 新しい観光形態としてのオンラインツアーの課題と可能性に関する研究	基盤研究(C)	愛知学院大学
29 観光列車と沿線地域の持続可能性-協働メカニズムの「見える化」に関する実証研究-	基盤研究(C)	相模女子大学
30 アートツーリズムを通じた観光まちづくりに関する観光社会学的研究	基盤研究(C)	滋賀大学
31 ニューマーケティングによる観光プロモーション方法の検討:画像印象評価と効果検証	基盤研究(C)	釜淵工業大学
32 世界遺産の社会的存立構造-カトリック・コミュニティの変容との関わりを中心に	基盤研究(C)	下関市立大学
33 文化観光の波及効果に関する国際比較研究-クリエイティブ産業への資金循環に着目して	基盤研究(C)	摂南大学
34 「感情労働」概念の再構成と観光業への適用	基盤研究(C)	せとち観光専門職短期大学
35 言語景観観察に基づく文化情報伝達の研究及び応用-掲示から文化認知へ-	基盤研究(C)	中央大学
36 地域観光資源の保全と管理に関する研究-観光市場の失敗の観点から	基盤研究(C)	中央大学
37 LCAに基づくサステナブル・ツーリズムの評価手法	基盤研究(C)	中部大学
38 刺激への感じ方がバーチャルな旅体験への評価に与える影響についての研究	基盤研究(C)	帝京大学
39 高齢観光の概念的接近:顧客の価値創造プロセス	基盤研究(C)	帝塚山大学
40 石川鳳珠都能登町における伝統的祭礼の保全と新たな観光振興	基盤研究(C)	東海大学
41 エコツーリズムにおける熟練ガイドのセーフティマネジメントの特徴と構造	基盤研究(C)	東京海洋大学
42 Exploring the potential of virtual tourism as tourism substitute for people under travel constraints	基盤研究(C)	東京立大学
43 持続的自然資源管理に向けたWeb-AR技術を用いた情報提供システムの開発	基盤研究(C)	東京農業大学
44 地域産業連関分析による離島振興に向けた経済構造の解明	基盤研究(C)	長崎県立大学
45 訪日外国人への災害情報提供の策と観光災害マネジメント	基盤研究(C)	名古屋国際工科大学
46 マレーシアのエスニックツーリズムを事例とした文化の商品化の多様性に関する研究	基盤研究(C)	名古屋市立大学
47 観光者の旅行行動や経験に関するネットノグラフィ-調査を用いた研究	基盤研究(C)	奈良県立大学
48 漂着プラスチック汚染への国際地域間の学び合いによる課題解決型エコツーリズム	基盤研究(C)	県立広島大学
49 宮島町家の外観および構造とまちなみ景観形成との関係性に関する研究	基盤研究(C)	広島工業大学
50 テキストマイニングを用いた分析にみる地方自治体の観光政策と観光行動の関係性	基盤研究(C)	広島修道大学
51 ポスト・コロナ社会における観光業の構造変化	基盤研究(C)	福島大学
52 観光経営人材の育成プロセス構築と成立要件の研究	基盤研究(C)	文教大学
53 ウィズコロナ時代の観光地における接遇コミュニケーションの相互行為分析	基盤研究(C)	北星学園大学
54 デジタル社会におけるワイナリーの顧客接点の在り方に関する研究~北海道を例として~	基盤研究(C)	北海道大学
55 Working while doing tourism, doing tourism while working: Rural development through remote working in a (post) pandemic world	基盤研究(C)	北海道大学
56 震災復興に向けたオンラインツアーにおける共感醸成指標の開発と理論モデルの構築	基盤研究(C)	宮城大学
57 観光土産のリピーター購買促進のためのポスト・コロナの観光意向とブランド態度の研究	基盤研究(C)	桃山学院大学
58 「冒険ツーリズム」の誕生に関する観光社会学的研究	基盤研究(C)	桃山学院大学
59 ポストコロナ時代の既存観光産業とシェアリングエコノミーサービスの共存戦略	基盤研究(C)	立命館アジア太平洋大学
60 観光の社会的意義を問う-労働の変化と余暇・観光の階層性からのアプローチ	基盤研究(C)	和歌山大学
61 Post-Pandemic Rural Revitalization: Culture and Tourism for Recovery, Resilience and Regeneration	基盤研究(C)	和歌山大学
62 わが国の天文観光の大衆化と夜空の美しさの内部化状況-工学的手法を取り入れた分析	基盤研究(C)	和歌山大学
63 Life, leisure and tourism in the wake of disaster: Investigating the role of surf tourism for post-tsunami coastal recovery	基盤研究(C)	和歌山大学
64 沖縄・竹富島におけるホストゲスト関係の変容をめぐる観光人類学的研究	基盤研究(C)	早稲田大学
65 トラベルヘルパーの就業動機とやりがいを中心とした探索的調査研究	若手研究	大阪商業大学
66 1920年代フランスに見る「食の観光資源」誕生と形成、およびその社会的要因	若手研究	お茶の水女子大学
67 Reconciling Light Contents Tourism and Dark History: A Case Study of Witch-Themed Tourism and Its Conflicts	若手研究	金沢大学
68 責任あるアグリツーリズムのプロトタイプ構築のための計量経済学的研究	若手研究	九州大学
69 観光SNSに関する経済学的な研究:ヘドニックアプローチと家計調査による分析	若手研究	京都産業大学
70 関係人口と地域の持続可能な協働に関する研究	若手研究	島根県立大学
71 宗教観光による起業家育成への貢献:ネパールのマナカマナ寺院の事例に	若手研究	創価大学
72 庭園観光実施主体のオーバー/アンダーツーリズムをめぐるリスク認識に関する研究	若手研究	東京大学
73 住民主体の観光地域づくり推進に向けた色の活用による地域学習プログラムに関する研究	若手研究	東京立大学
74 Tourism impacts of the Covid-19 pandemic and strategies for the recovery.	若手研究	東京立大学
75 温泉地域を対象としたCOVID-19による経済的影響と観光支援策に関する調査研究	若手研究	豊橋技術科学大学
76 Improving the international travel experience in the time of COVID-19	若手研究	長崎大学
77 軍港都市の観光地化に関する研究	若手研究	広島大学
78 ジオツーリズムの地域波及効果の研究:ローカルコミュニティの参加に着目して	若手研究	文教大学
79 人口減少地域における巡礼ツーリズムの高まりによる霊場空間の再編に関する研究	若手研究	名桜大学
80 地方自治体の観光政策形成と心理的課題解決策:葛藤する地域社会と包摂する観光政策	若手研究	立教大学
81 映画研究による観光客のまなざし論の展開-観光象徴研究を軸に	若手研究	流通経済大学
82 日本の低消費型野生動物ツーリズム:オンラインオフライン混合空間における意味と倫理	特別研究員奨励費	北海道大学
83 観光が浮かび上がらせる移動のポリテイクスクリューティカル・ツーリズムの視点から	挑戦的研究(萌芽)	西武文理大学

(注)研究期間の開始年度が2022年度で、審査区分が「小区分8020:観光学関連」の82件、また研究概要から判断した「中区分8:社会学およびその関連分野」の1件(83番)を対象としている。
資料:科学研究費助成事業データベースをもとに(公財)日本交通公社作成